特 記 仕 様 書

Ⅰ 工 事 概 要

工事名称：小真木原陸上競技場改修工事
工事場所：鶴岡市小真木原町地内
工事内訳：撤去工、舗装工、排水工、附帯施設工、電気設備工

Ⅱ 一 般 事 項

Ⅱ・１　競技場の規格

本陸上競技場は、改修後に財団法人日本陸上競技連盟(以下“陸連”と言う)競技規則に基づく全天候舗装第３種公認陸上競技場とするものである。
使用する表層材はワールドアスレチックス(以下“ＷＡ”と言う)の認証舗装材と同材とし、山形県内で全天候舗装第３種公認陸上競技場以上のウレタン表層材として販売実績を有し、アフターフォローの観点から県内に本社または営業所等を設置しているメーカーの製品とする。
施工者は自社にてＷＡの認証舗装材を保持している者とする。
公式の陸上競技会を開催し得るに充分な精度のある施設とする。

Ⅱ・２　公認検定

本陸上競技場は工事完了後の翌年度に陸連による公認検定を受け、これに合格しなければならない為、検定の結果が公認基準に合格しない場合、本改修工事範囲については請負者の責任において手直し、又は改造を行なうものとする。ただし公認検定の為の諸手続きと検定費用及び公認料は、発注者の負担とする。

Ⅱ・３　標準仕様書

本特記仕様書及び図面に記載されてない事項については「公共建築工事標準仕様書」、「公共建築改修工事標準仕様書」及び「山形県土木工事標準仕様書」、「土木工事施工管理基準」、「土木工事品質及び出来形規格値」を標準仕様書とし、これに基づいて施工する。（仕様書の適用にあたり、市監督職員と協議の上決定すること）

適用規格・基準
①最新版　陸上競技ルールブック（財団法人 日本陸上競技連盟編）
②最新版　都市公園技術標準解説書（社団法人 日本公園緑地協会編）
③最新版　屋外スポーツ施設の建設指針（財団法人 日本スポーツ施設協会 屋外体育施設部会編）
④舗装設計施工指針（社団法人 日本道路協会編）
⑤舗装施工便覧（社団法人 日本道路協会編）
⑥舗装構造に関する技術基準同解説（社団法人 日本道路協会編）

Ⅱ・４　監督職員の定義

本仕様書に言う監督職員は、鶴岡市の本工事担当職員を言い、監督職員は工事契約書に基づき設計図書の記載事項に関して、指示・承認・協議・検査立ち会い及び検査等を行う。

Ⅱ・５　工程管理

工事着工に先立ち、工程表・施工計画書・現場組織表を監督職員に提出し、承認を受けた後、工事に着手するものとする。

Ⅱ・６　材料の管理

６－１　工事に使用する材料は、「材料承認願」を提出し監督職員の承認を受け、工程表に従い工事の進捗に支障のないよう充分に手配すること。

６－２　現場に搬入された資材は、随時監督職員が点検・試験のできるように検査試験用具を準備し、監督職員が不合格と認めた材料は、速やかに代品を納入し、再度点検を受けること。

６－３　検査試験時に合格した資材であっても使用時に監督職員が材質不良と認めたものは使用して はならない。

Ⅱ・７　施工検査

あらかじめ監督職員の指示した箇所等、主要な工事段階の区切等では、監督職員の検査を受けなければならない。

Ⅱ・８　現場管理

８－１　請負者は、関係法令、関係指針を遵守し、常に工事の安全に留意し現場管理を行うこと。

８－２　本競技場は、高度の平坦性および適度な弾力性と高精度の施工技術を要するため、工事施工期間中は同規模・同種の実績、経験を積んだ技術者を下請け業者から選任して市の承諾を受けるとともに現場に配置し、施工管理、品質管理に万全を期さなければならない。

８－３　本工事にはポリウレタン樹脂や溶剤等、化学物質を使用するので、その保管取扱いについては、関係する諸法規定を遵守しなければならない。

Ⅱ・９　後片付け

工事が完了した時は、速やかに仮設物を取り払い、後片付け、清掃をする。ただし、特に期限の定められたものに付いては期限内に処理すること。

Ⅱ・10　竣工図

工事竣工後、監督職員の指示に従い、竣工図並びに必要な図書を作成し、監督職員の指示する図書を速やかに提出すること。

Ⅲ フ ィ ー ル ド 舗 装 工 事

Ⅲ・１　全天候型ポリウレタン舗装工事

１－１　材料

ａ）砕石（路盤）

ごみ、泥、および草根等、有害な有機物を含まない　JIS A 5001 の規定に適合したクラッシャーラン（C-40）を使用する。

ｂ）アスファルト混合物（下部基層）
「舗装設計施工指針」に規定された開粒度アスコン（13m/mトップ）を使用する。

ｃ）アスファルト混合物（上部基層）
「舗装設計施工指針」に規定された開粒度アスコン（13m/mトップ）を使用する。

尚、ポリウレタン表層材との接着強度は、アスコン表面を特殊下地処理及び特殊プライマー処理した後の値で別表「ポリウレタン系表層材品質規格表」の接着性欄記載の値以上とする。

ｅ）ポリウレタン表層材(レヂンエースSE　同等)

ｅ－ｉ）使用する表層材はＷＡの認証舗装材と同材とし、施工者は自社にてＷＡの認証舗装材を保持している者とする。

ｅ－ii）ポリウレタン樹脂を使用する製品は、特定化学物質障害予防規則に該当せず、MOCA（3・3ジクロロ4-4ジアミノジフェニルメタン）、無配合の製品を使用する。

ｅ－iii）物性については、試験成績書を提出し、監督職員の承認を得なければならない。

ｅ－iv）耐候性については、屋外暴露試験に依る評価を原則とする。ただし、期間的に不可能な場合は、JIS A 1415に規定する促進試験をもって判定資料とする。

ｅ－ｖ）ポリウレタン表層材の品質規格は、下表「ポリウレタン系表層材品質規格表」の基準総てを満足するものでなければならない。

ポリウレタン系表層材品質規格表

	項　目	規　格　値	試　験　方　法
材料自身の試験	硬　さ	20℃　40～75	JIS K 6253-3 ﾃﾞｭﾛﾒｰﾀｰA
		70℃　20℃の-10%以内	
	引　張　強　さ	2.0Mpa以上	JIS K 6251
	伸　び	400%以上	JIS K 6251
	引　裂　強　さ	12N／mm以上	JIS K 6252-1 アングル型(切り込みなし)
	耐　摩　耗　性	600mg以下	JIS K 7204　ﾃｰﾊﾞｰ摩耗試験機 CS－17、9.8N、1,000回
	耐候性：屋外暴露	ひび割れ、チョーキング、退色などの著しい劣化が生じないこと。	一年間以上屋外南面に暴露または過去に施工された競技場やコートなどの劣化状況判断による。
	耐候性：促進暴露		JIS A 1415 WS-A型 ｳｪｻﾞｰﾒｰﾀｰ 1,000時間
舗装体としての試験	下地との接着性	20±5℃　50N／25mm以上	JIS K 6854-1、90度剥離 下地ｰｱｽｺﾝ
		50±5℃　15N／25mm以上またはｱｽｺﾝ凝集破壊	

１－２　施工

ａ）アスファルト舗装工

ａ－ｉ）路盤工

路盤材を所定の仕上がり厚さが得られるように均一を敷き均し、所定の締固め度が得られるまで締め固め、所定の形状に平坦に仕上げる。

ａ－ii）基層工

基層工は平坦性を重視し、下部基層と上部基層の二層仕上げとする。基層施工の良否が、全天候舗装競技場の品質・安定性・耐久性に大きな影響を与えるため、次の点に留意し施工する。
イ）縦横断形状は正しく平坦に仕上げる。
ロ）締固めは充分に行い、均一な締固め度に仕上げる。
ハ）再生アスファルト混合物は、ブリスタリングを生じやすいので使用してはならない。

ｂ）ポリウレタン表層工

ｂ－ｉ）準備工

イ）アスファルト舗装表面にある土砂・塵埃等は、スイーパーまたは水洗いなどにより表層施工前に除去しなければならない。
ロ）アスファルト表面に凹凸或いは欠陥部及び不良な箇所があれば補修する。
ハ）周辺付帯構造物を汚さないよう充分な養生をしてから、表層工に入らなければならない。

ｂ－ii）下地処理工

イ）アスファルト舗装面の強化及び平坦性の修正及び防湿・接着力の強化の為、特殊ポリマーセメントを塗布する。

ｂ－iii）プライマー工

イ）ポリウレタンベース層とアスファルト舗装面を密着・一体化させる為に専用のプライマーを塗布する。
ロ）塗布後の乾燥養生は充分に行わなければならない。

ｂ－iv）ポリウレタンベース層工

衝撃吸収効果を高めるために、所定の二液硬化型ポリウレタン樹脂に発砲弾性チップを混入した材料を厚さが均一となるように平坦に敷均す。

ｂ－ｖ）ポリウレタン耐久層工

イ）二液硬化型ポリウレタン樹脂を厚さが均一となるように平坦に敷均する。
ロ）不陸修正は入念に行なわなければならない。

ｂ－vi）エンボス仕上げ工

二液性ウレタン樹脂とエンボス形状付与骨材の混合材をエンボス状に仕上げる。

ｂ－vii）トップコート工

耐候性の強化とつや消しによる美観、適度な滑りを与える為に特殊トップコートを均一に散布して仕上げる。

ｃ）ポリウレタン表層オーバーレイ工

ウレタン材については、①層間接着不良による剥離の発生、②含有成分の違いによる耐候性の低下などを防止するために既設表層材のレヂンエースウレタンとする。

ｃ－ｉ）既存ウレタン切削工

イ）湿式または乾式のウレタン切削機械にて既設ウレタン層を平均２mm厚に均一に切削を行う。
ロ）切削機にて施工不可能の場所には、ディスクグラインダー等にて切削する。

ｃ－ii）水洗い工

ウレタン切削後、スイーパーにて清掃を行う。清掃後オイル及び付着切削粉については、水洗及び中性洗剤等で除去する。

ｃ－iii）不陸整正工

ウレタンオーバーレイに先立ち不陸整正の為、切削後の既存ウレタン表面に水散布を行う。２mm以上の水溜り部にはウレタンを流し込み平滑になるように修正する。又２mm以上の凸部は切削により平滑に修正する。

ｃ－iv）ポリウレタンプライマー工

既存ウレタンベース層と耐久層を密着一体化させる為、ポリウレタンプライマーを、当日の施工範囲に合わせて、均一に散布する。

ｃ－ｖ）ポリウレタン耐久層工

Ⅲ・１　１－２　ｂ）　ｂ－ｖ）の項に準じる。

ｃ－vi）エンボス仕上げ工

Ⅲ・１　１－２　ｂ）　ｂ－vi）の項に準じる。

ｃ－vii）トップコート工

Ⅲ・１　１－２　ｂ）　ｂ－vii）の項に準じる。

ｄ）施工の管理基準

ｄ－ｉ）ポリウレタン耐久層工
〔厚　さ〕：硬化後に、ベース層までの厚さを検査する。測点毎の許容誤差は－1.5mm以内で、測点全部の平均値は所定の厚さ以上でなければならない。
施工測点は監督職員の指示による。

ｅ）注意事項

ｅ－ｉ）ポリウレタン表層工に当っては各工程ともに、降雨が予想される場合は作業を中止する。

ｅ－ii）ポリウレタン施工時の気温は５℃以上が望ましい。但し、５℃以下の場合は監督職員と協議を必要とする。

ｅ－iii）原料材は通常水分に依る影響を受けやすい為、保管に充分注意しなければならない。

ｅ－iv）夏季は高温・多湿となるため、ポリウレタン樹脂の反応が活発になり、硬化時間の短縮及び微量の水分によるトラブルが発生しやすいので、条件に合った施工体制を取らなければならない。

ｅ－ｖ）契約不適合責任期間：ポリウレタン表層工の契約不適合責任期間は、下記の通りとする。

イ）材質及び施工技術の不備に起因する亀裂・剥離・フクレ・不陸について……５年
ロ）表面、トップコートの摩耗、退色について（競技に支障があると判断される迄）……４年
ハ）ラインマーキングの消滅について（競技に支障があると判断される迄）……３年

Ⅲ・２　カラーゴムチップ舗装工事

２－１　材料

ａ）砕石（路盤）

Ⅲ・１　１－１　ａ）　の項に準じる。

ｂ）アスファルト混合物（下部基層・上部基層）

Ⅲ・１　１－１　ｂ）　および　ｃ）の項に準じる。

ｃ）ゴムチップ表層材(ｽﾎﾟｰﾂｴｰｽE　同等)

ｃ－ｉ）ゴムチップ（EPDM）をポリウレタンバインダーで強固に結合させ、連続性空隙および耐スパイク性を有する全天候舗装材（ｽﾎﾟｰﾂｴｰｽ E同等）とする。

ｃ－ii）耐候性については、屋外暴露試験に依る評価を原則とする。ただし、期間的に不可能な場合は、JIS A 1415に規定する促進試験をもって判定資料とする。

ｃ－iii）ゴムチップ舗装材の品質については、下表「ゴムチップ舗装材品質規格表」の基準全てを満足するものでなければならない。

ゴムチップ舗装材(ｽﾎﾟｰﾂｴｰｽE)品質規格表

項　目	規　格	試験方法
比　重	0.6以上	JIS K 6767
引張強度	0.4MPa以上	JIS K 6251
伸 び 率	40%以上	JIS K 6251
耐摩耗性	600mg以下	JIS K 7204、ﾃｰﾊﾞｰ摩耗試験機 CS-17、荷重9.8N　1000回転
すべり抵抗	Wet時　40以上	ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙｽｷｯﾄﾞﾚｼﾞｽﾀﾝｽﾃｽﾀｰ (ASTM E 303)
耐候性：屋外暴露	ひび割れ、チョーキング、退色などの著しい劣化が生じない事	1年間以上屋外南面に暴露または過去に施工された競技場やｺｰﾄ等の劣化状況判断による。
耐候性：促進暴露		JIS A 1415　WS-A型ｳｪｻﾞｰﾒｰﾀｰ 1000時間

工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	特記仕様書-1		
作成年月日	令和7年9月		
縮　尺	1:300(A1)	図面番号	1
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

２－２　施工

ａ）アスファルト舗装工

ａ－ｉ）路盤工

Ⅲ・１　１－２　ａ）　ａ－ｉ）の項に準じる。

ａ－ⅱ）基層工

Ⅲ・１　１－２　ａ）　ａ－ⅱ）の項に準じる。

ｂ）ゴムチップ舗装工

ｂ－ｉ）準備工

Ⅲ・１　１－２　ｂ）　ｂ－ｉ）の項に準じる。

ｂ－ⅱ）ゴムチップ工
ウレタン樹脂で結合されたゴムチップ（EPDM）を所定厚に平滑に敷き均し、
均一な仕上がり面に施工する。著しい粗密箇所が発生した場合は同材を充填し、
再度コテにて均一に仕上げること。

Ⅲ・３　天然芝生舗装(日本芝)工事

３－１　材料

ａ）床土

夾雑物や草根を含まない山砂を使用すること。

ｂ）切り芝

使用するコウライシバの切り芝は、栽培地において茎葉が密で均一に繁茂したもので、
病虫害に冒されていないものを使用する。現場搬入時に、乾燥しているもの、
ムレなどにより黄化したもの、雑草が混生しているものは使用しない。

ｃ）目土

夾雑物や草根を含まない山砂(細目）を使用する。

３－２　施工

ｂ）床土工

ｂ－ｉ）敷き均し、転圧、整正

下層面を損なわないように、床土材を敷設し、芝用ローラーにて転圧すること。
また敷設、転圧時に生じた不陸は同材の補充により速やかに人力にて修正すること。

ｃ）張芝工

ｃ－ｉ）施工時期

張り芝の施工は、適期（芝草の生育期）に行い、冬期及び盛夏はできるだけ避ける
こと。

ｃ－ⅱ）施工方法

イ）張り芝の方法はベタ張りとし、現場搬入後は速やかに敷設し、全面ムラのない
ように丁寧に目土を掛ける。搬入日に施工が不可能な場合は、乾燥、蒸れ防止の
ための養生を行なう。
ロ）転圧は、芝用ローラーにて芝が動かぬよう丁寧に施し、不陸の生じた部分は
成長に応じて目土を補充して修正を施す。

Ⅳ　舗装止め縁石工事

舗装止め縁石配置図に依り、地先境界ブロックを設置する。全天候舗装の境界部は天端に
コンクリートプライマー処理し、ウレタン舗装およびカラーゴムチップ舗装を行う。
ウレタン舗装部の境界部は、はがれ防止のため端部処理を行う。

Ⅴ　附帯施設工事

Ⅴ・１　内圏縁石

設計図に依り、正確な位置に抜差式の内圏縁石(スポーツカービング)を新設する。

Ⅴ・２　角石・標石

設計図に依り、正確な位置に真鍮板を新設する。

Ⅴ・３　標識タイル

イ）標識タイル位置図に依り、各トラック競技のスタート位置等を示すSUS製タイルを
内圏縁石の内側、およびトラック外周ラインの外側に正確に設置する。
ロ）150mスタートの位置を示す皿ビスおよびレーンを示すマーキングを内圏縁石の内側、
およびトラック外周ラインの外側に正確に設置する。

Ⅴ・４　砲丸投サークル

イ）設計図に依り、SUS製サークルおよび木製足留材を正しい位置に新設する。
ロ）サークル表面は刷毛引き仕上げとする。
ハ）ウレタン舗装材と同材（レヂンエースウレタン同等）を使用し、サークル蓋を新設する。

Ⅴ・５　砲丸落下域

イ）既設砲丸落下域に、緑色スクリーニング（グリーンサンド）を補充・整正する。
ロ）砲丸落下域に投てき角度を示すラインテープを設置する。

Ⅴ・６　兼用サークル

イ）設計図に依り、SUS製サークルを正しい位置に新設する。
ロ）サークル表面は刷毛引き仕上げとする。
ハ）ウレタン舗装材と同材（レヂンエースウレタン同等）を使用し、サークル蓋を新設する。

Ⅴ・７　競技用砂場

イ）既設競技用砂場に、砂場用砂を補充・整正する。
ロ）既設砂場枠を洗浄・再塗装およびマーキングを行う。

Ⅴ・８　水濠

障害バー下部の既設障害池躯体モルタル表面をはつり除去した後、ウレタン表層を
新設する。

Ⅴ・９　踏切板

イ）設計図に依り、踏切板ボックスを正しい位置に新設する。
ロ）ウレタン蓋は助走路のポリウレタン表層との隙間が大き過ぎないよう充分注意して
製作する。

Ⅴ・10　棒高跳

既設の棒高跳突箱の排水管清掃を行う。

Ⅴ・11　レーンマーキング

無黄変アクリルウレタン樹脂塗料を使用し、設計図及び陸連規定による全天候舗装用
レーンマーキング色分け標準表に依り、トラックのレーンライン及び助走路ライン、
各競技マーキングを蛇行しないよう、正確に引く。

Ⅴ・12　芝切下げ

メイン前助走路の周囲の芝生をソッドカッター等を用いて一時撤去を行い、床土の
不陸整正した後、芝生を復旧する。

Ⅵ その 他

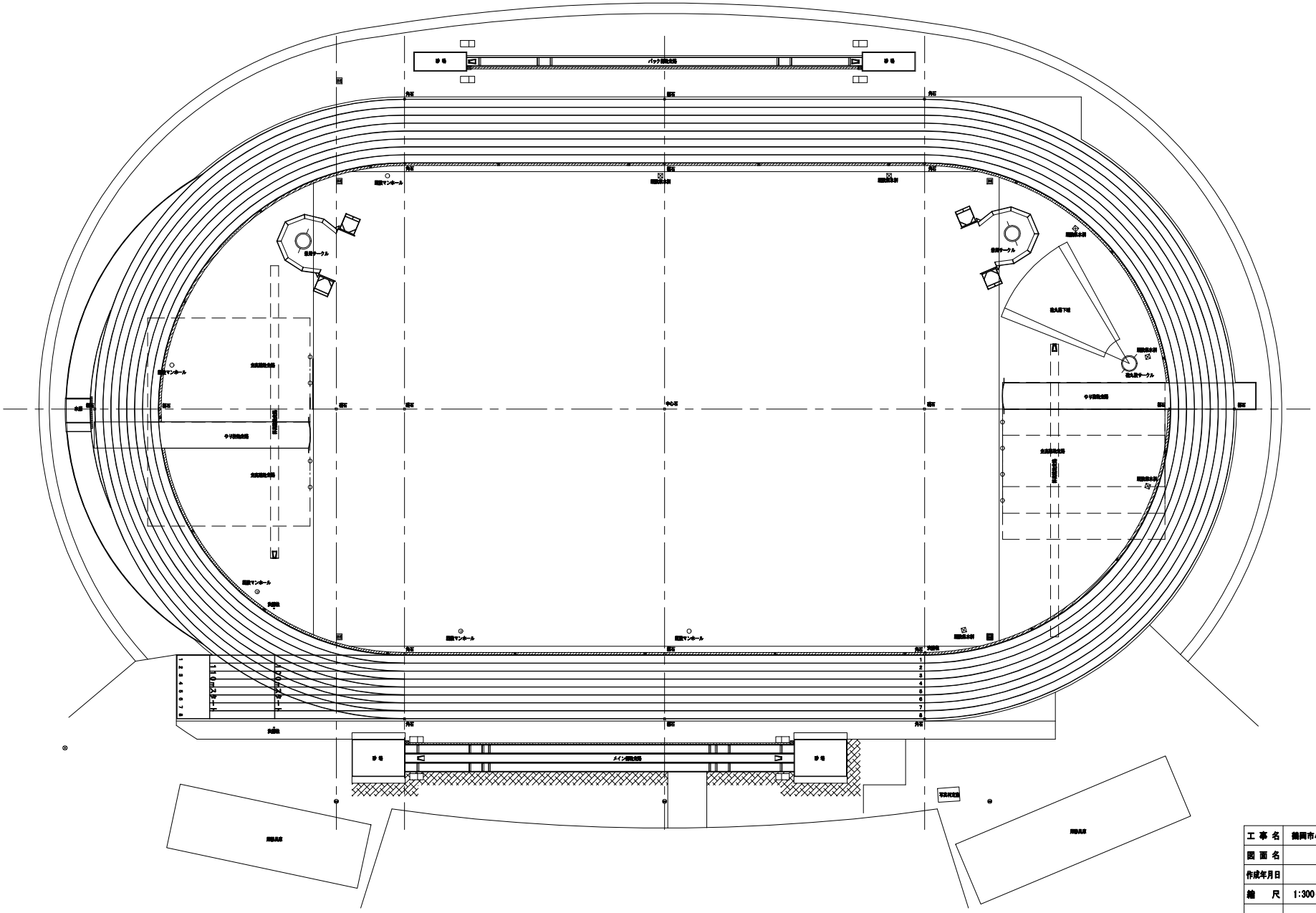
Ⅵ・１　陸上競技規則改正時の対応

陸連による公認検定までの期間において、陸上競技規則の改正により、その対応のため
当初の工事内容と差異が生じた場合、受注者は発注者および陸連、地元検定員と工事内容に
ついて協議を行い対応を行うこと。

工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	特記仕様書-2		
作成年月日	令和7年9月		
縮　　尺	1:300(A1)	図面番号	2
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

現況図

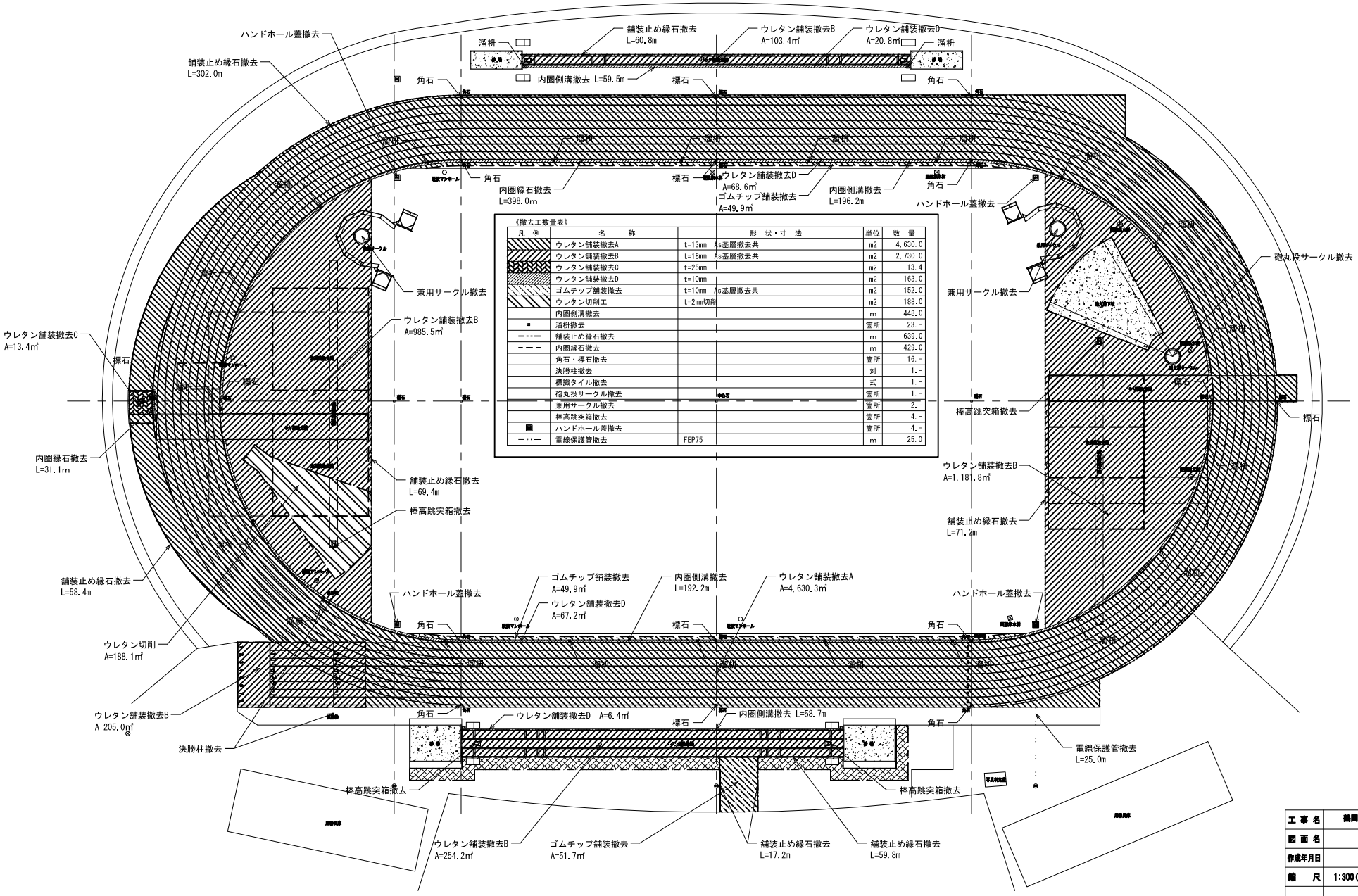
S=1:300(A1)



工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	現況図		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	1:300(A1)	図面番号	03
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

撤去平面図

S=1:300(A1)



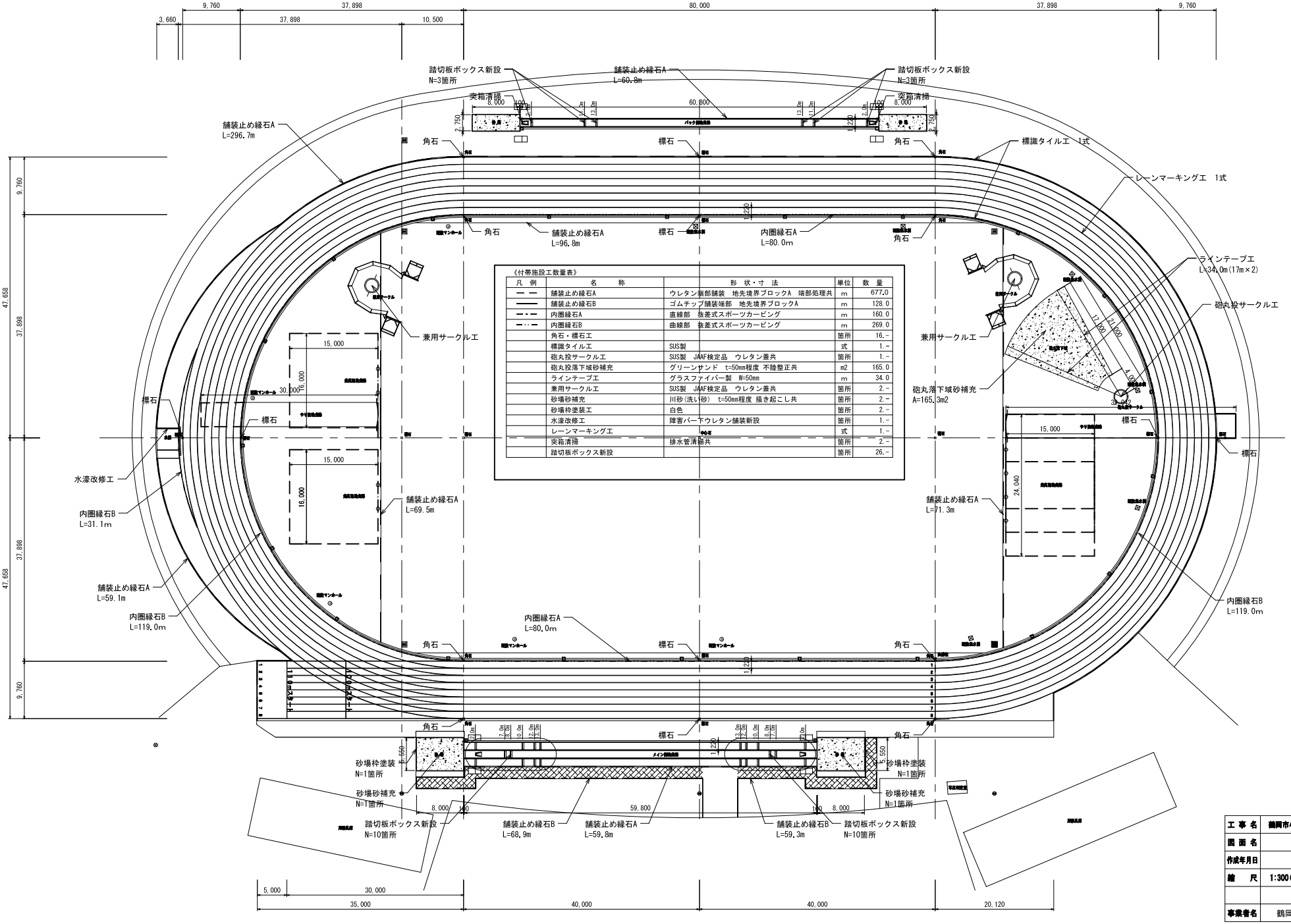
《撤去工数量表》

凡例	名称	形状・寸法	単位	数量
	ウレタン舗装撤去A	t=13mm As基層撤去共	m2	4,630.0
	ウレタン舗装撤去B	t=18mm As基層撤去共	m2	2,730.0
	ウレタン舗装撤去C	t=25mm	m2	13.4
	ウレタン舗装撤去D	t=10mm	m2	163.0
	ゴムチップ舗装撤去	t=10mm As基層撤去共	m2	152.0
	ウレタン切削工	t=2mm切削	m2	188.0
	内圏側溝撤去		m	448.0
	溜枡撤去		箇所	23.-
	舗装止め縁石撤去		m	639.0
	内圏縁石撤去		m	429.0
	角石・標石撤去		箇所	16.-
	決勝柱撤去		対	1.-
	標識タイル撤去		式	1.-
	砲丸投サークル撤去		箇所	1.-
	兼用サークル撤去		箇所	2.-
	棒高跳突箱撤去		箇所	4.-
	ハンドホール蓋撤去		箇所	4.-
	電線保護管撤去	FEP75	m	25.0

工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	撤去平面図		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	1:300(A1)	図面番号	04
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

平面配置図

S=1:300(A1)



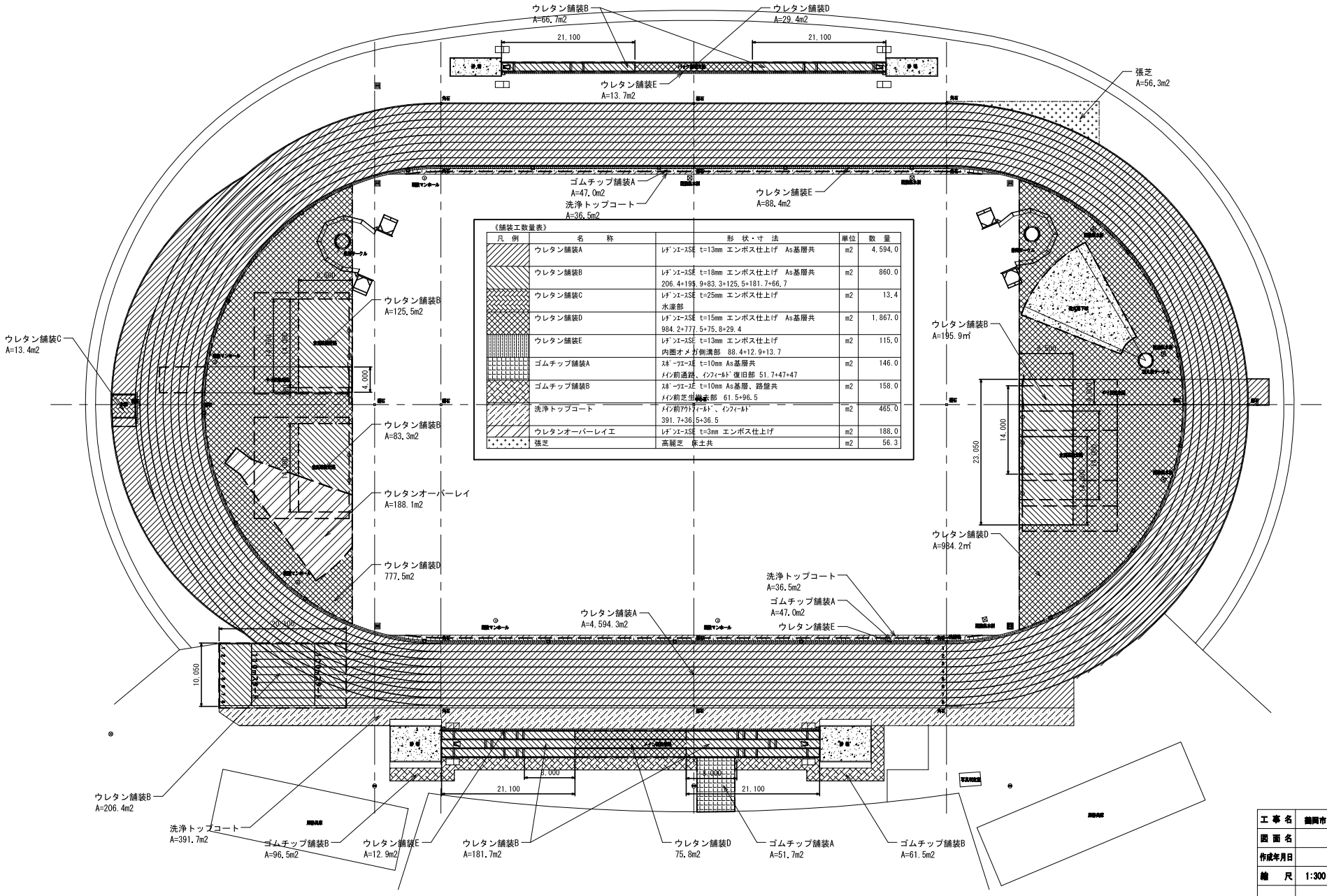
《付帯施設工数量表》

凡　例	名　　称	形　状・寸　法	単位	数　量
― ―	舗装止め縁石A	ウレタン端部舗装　地先境界ブロックA　端部処理共	m	677.0
――――	舗装止め縁石B	ゴムチップ舗装端部　地先境界ブロックA	m	128.0
―・―	内圏縁石A	直線部　抜差式スポーツカービング	m	160.0
―‥―	内圏縁石B	曲線部　抜差式スポーツカービング	m	269.0
	角石・標石工		箇所	16.-
	標識タイル工	SUS製	式	1.-
	砲丸投サークル工	SUS製　JAAF検定品　ウレタン蓋共	箇所	1.-
	砲丸投落下域砂補充	グリーンサンド　t=50mm程度 不陸整正共	m2	165.0
	ラインテープ工	グラスファイバー製　W=50mm	m	34.0
	兼用サークル工	SUS製　JAAF検定品　ウレタン蓋共	箇所	2.-
	砂場砂補充	川砂(洗い砂)　t=50mm程度 掻き起こし共	箇所	2.-
	砂場枠塗装工	白色	箇所	2.-
	水濠改修工	障害バー下ウレタン舗装新設	箇所	1.-
	レーンマーキング工		式	1.-
	突箱清掃	排水管清掃共	箇所	2.-
	踏切板ボックス新設		箇所	26.-

工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	平面配置図		
作成年月日	令和7年9月		
縮　尺	1:300(A1)	図面番号	05
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

路面区分図

S=1:300(A1)



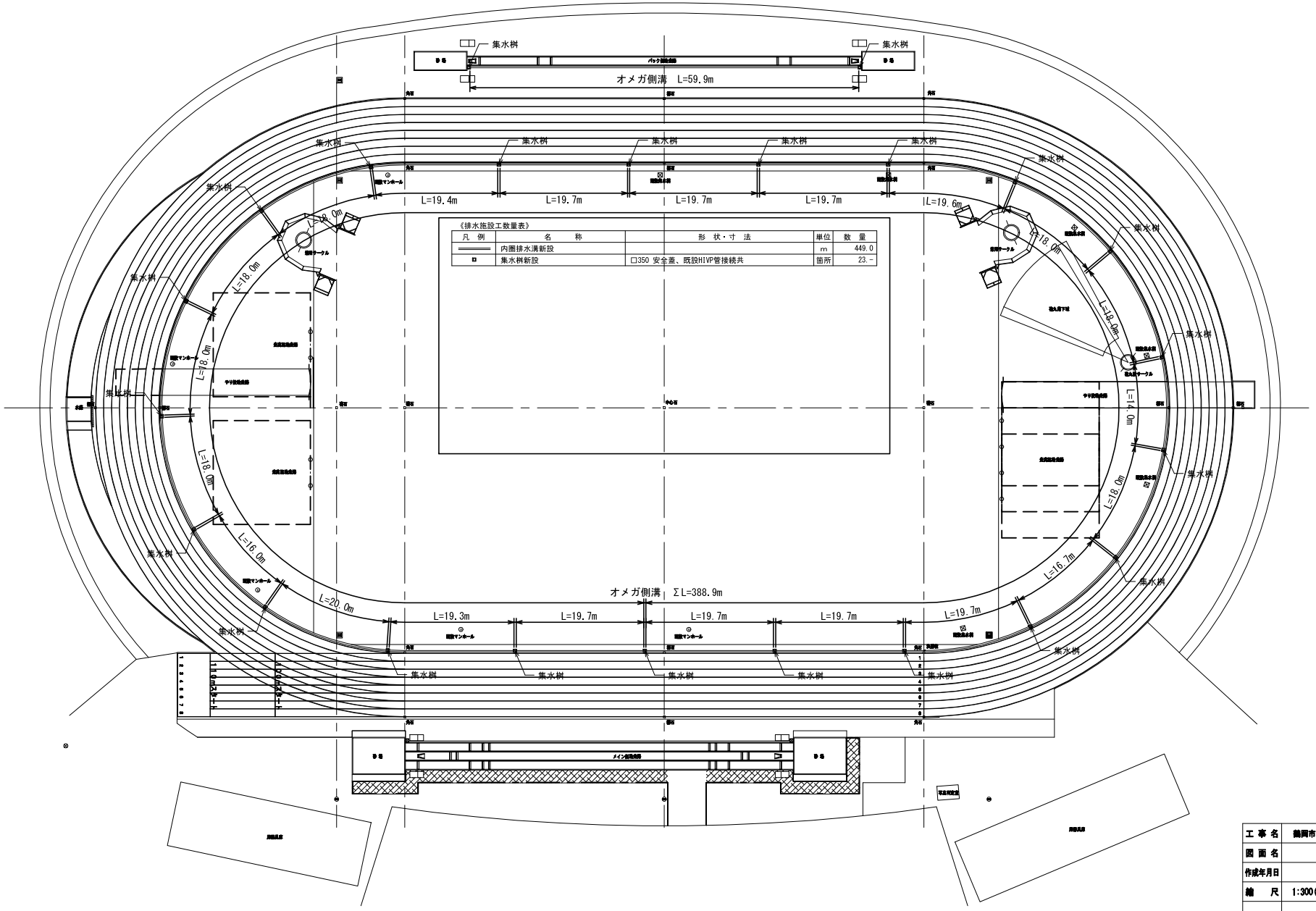
《舗装工数量表》

凡 例	名 称	形 状・寸 法	単位	数 量
	ウレタン舗装A	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=13mm エンボス仕上げ As基層共	m2	4,594.0
	ウレタン舗装B	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=18mm エンボス仕上げ As基層共 206.4+195.9+83.3+125.5+181.7+66.7	m2	860.0
	ウレタン舗装C	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=25mm エンボス仕上げ 水濠部	m2	13.4
	ウレタン舗装D	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=15mm エンボス仕上げ As基層共 984.2+777.5+75.8+29.4	m2	1,867.0
	ウレタン舗装E	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=13mm エンボス仕上げ 内圏オメガ側溝部 88.4+12.9+13.7	m2	115.0
	ゴムチップ舗装A	ｽﾎﾟｰﾂｴｰｽE t=10mm As基層共 ﾒｲﾝ前通路、ｲﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ復旧部 51.7+47+47	m2	146.0
	ゴムチップ舗装B	ｽﾎﾟｰﾂｴｰｽE t=10mm As基層、路盤共 ﾒｲﾝ前芝生張芝部 61.5+96.5	m2	158.0
	洗浄トップコート	ﾒｲﾝ前ｱｳﾄﾌｨｰﾙﾄﾞ、ｲﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ 391.7+36.5+36.5	m2	465.0
	ウレタンオーバーレイエ	ﾚｼﾞﾝｴｰｽE t=3mm エンボス仕上げ	m2	188.0
	張芝	高麗芝 床土共	m2	56.3

工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	路面区分図		
作成年月日	令和7年9月		
縮 尺	1:300(A1)	図面番号	06
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

排水計画平面図

S=1:300(A1)



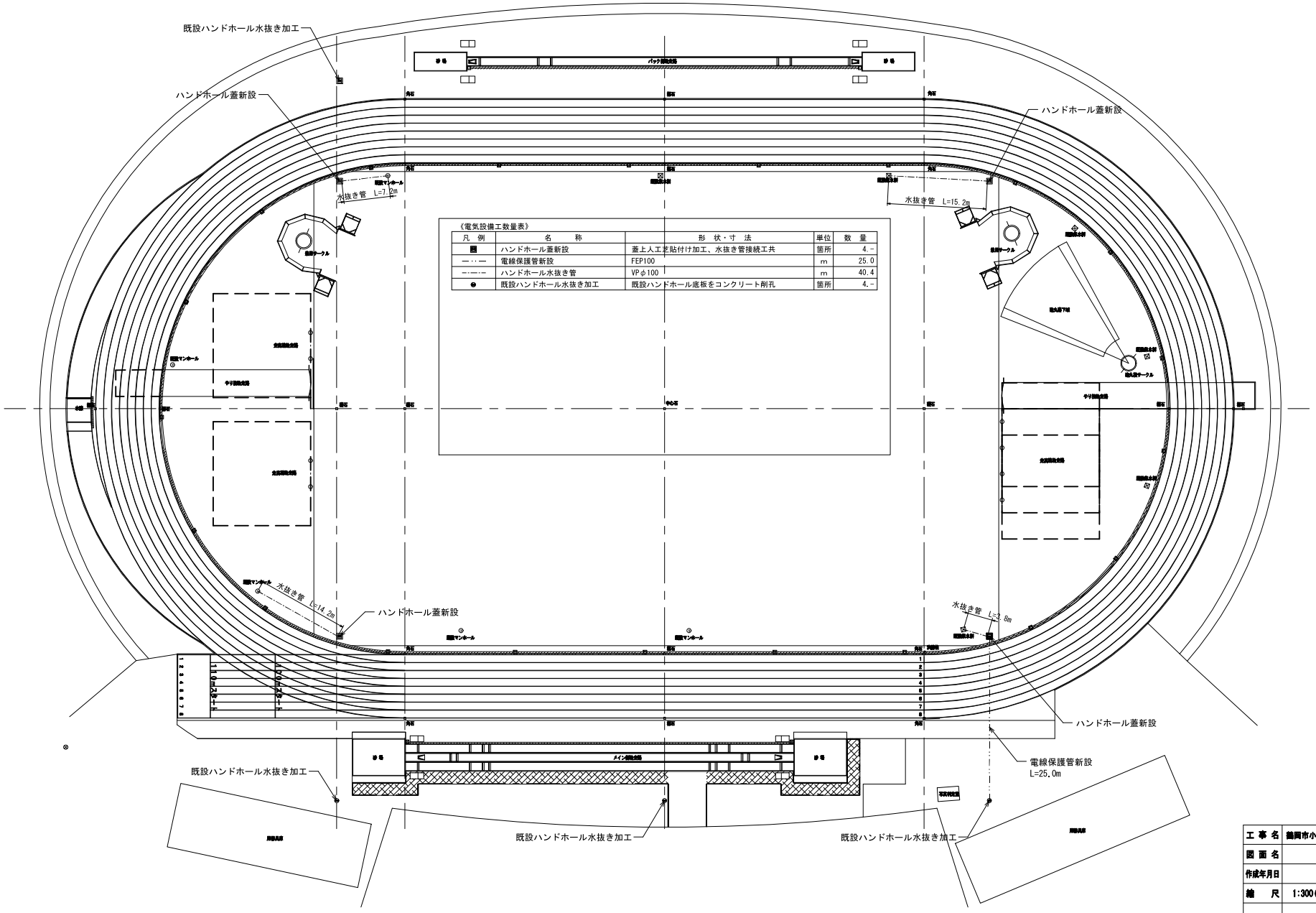
《排水施設工数量表》

凡　例	名　　称	形　状・寸　法	単位	数　量
═══	内圏排水溝新設		m	449.0
⊠	集水桝新設	□350 安全蓋、既設HVP管接続共	箇所	23.-

工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	平面配置図		
作成年月日	令和7年9月		
縮　尺	1:300(A1)	図面番号	07
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

電気施設平面図

S=1:300(A1)



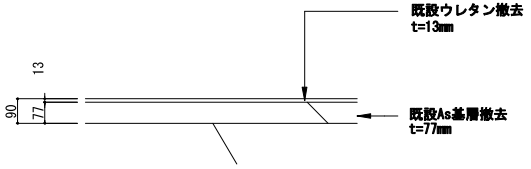
《電気設備工数量表》

凡 例	名 称	形 状・寸 法	単位	数 量
■	ハンドホール蓋新設	蓋上人工芝貼付け加工、水抜き管接続工共	箇所	4.-
—・・—	電線保護管新設	FEP100	m	25.0
—・—・—	ハンドホール水抜き管	VPφ100	m	40.4
●	既設ハンドホール水抜き加工	既設ハンドホール底板をコンクリート削孔	箇所	4.-

工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	電気施設平面図		
作成年月日	令和7年9月		
縮 尺	1:300(A1)	図面番号	08
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

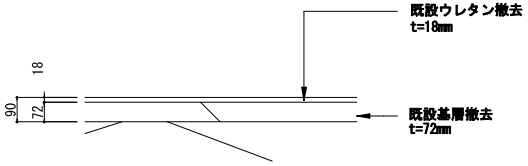
ウレタン舗装撤去A 断面図　S=1:10

（トラック）



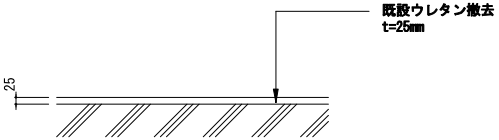
ウレタン舗装撤去B 断面図　S=1:10

（A・Bゾーン、直走路スタート、助走路）



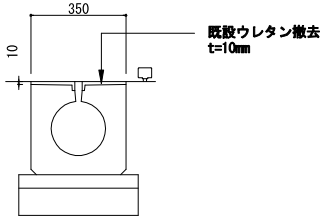
ウレタン舗装撤去C 断面図　S=1:10

（水溜部）



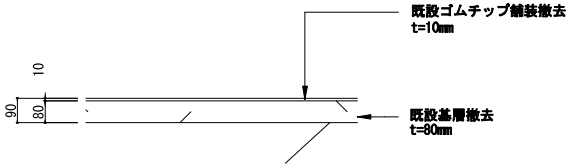
ウレタン舗装撤去D 断面図　S=1:10

（既設内溝側溝部）



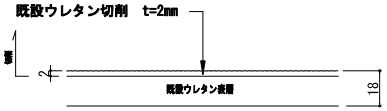
ゴムチップ舗装撤去 断面図　S=1:10

（メイン前通路、インフィールド）



ウレタン切削 断面図　S=1:1

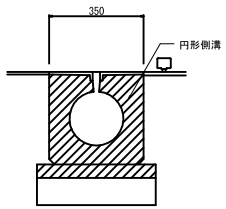
（Bゾーン旧砲丸落下域部）



工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	撤去概略構造図-1		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	図示	図面番号	09
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

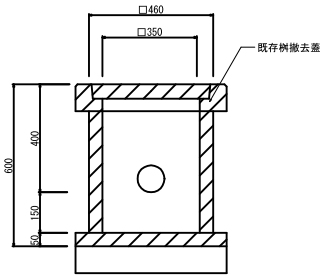
既存内圏排水溝概略図

S=1:10



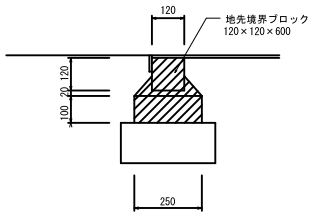
既存集水桝概略図

S=1:10



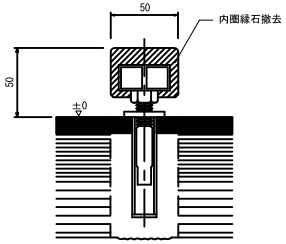
既存舗装止縁石概略図

S=1:10



既存内圏縁石概略図

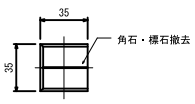
S=1:2



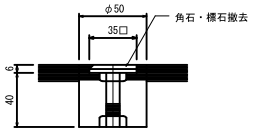
既存角石・標石概略図

S=1:2

平面図



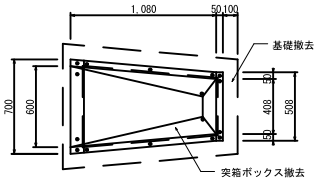
断面図



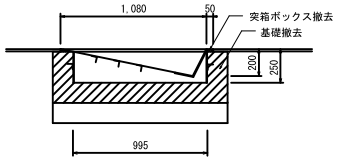
既存突箱概略図

S=1:30

平　面　図



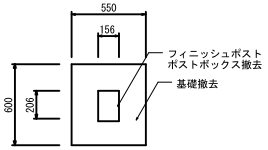
断　面　図



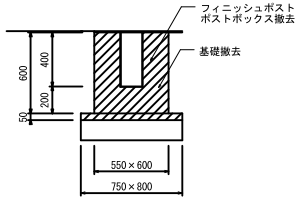
既存フィニッシュポスト概略図

S=1:20

平　面　図



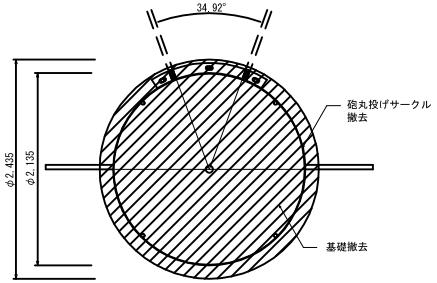
断　面　図



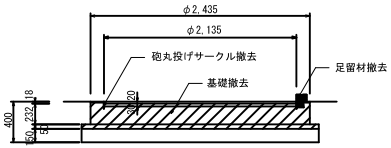
既存砲丸投サークル概略図

S=1:30

平　面　図



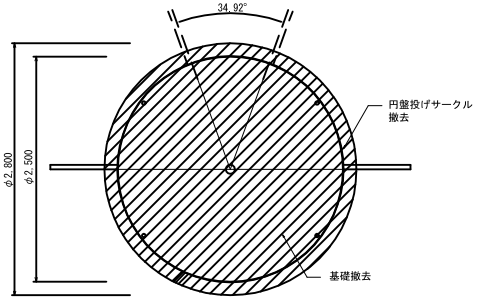
断　面　図



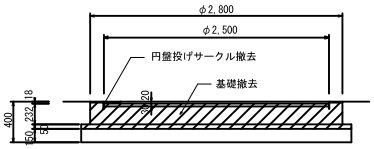
既存兼用サークル概略図

S=1:30

平　面　図



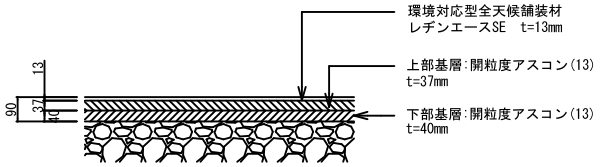
断　面　図



工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	撤去概略構造図-2		
作成年月日	令和7年9月		
縮　尺	図　示	図面番号	10
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

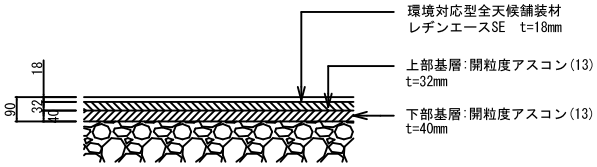
ウレタン舗装新設A 断面図　S=1:10

（トラック）



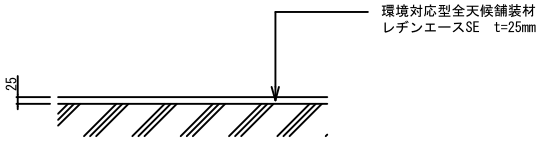
ウレタン舗装新設B 断面図　S=1:10

（助走路踏切部、直走路スタート部）



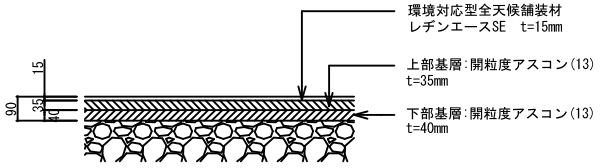
ウレタン舗装新設C 断面図　S=1:10

（水濠部）



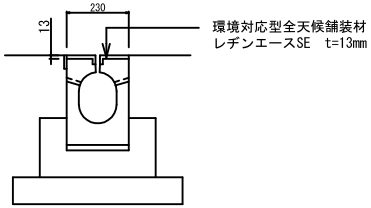
ウレタン舗装新設D 断面図　S=1:10

（A・Bゾーン、助走路）

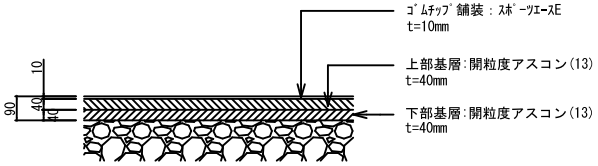


ウレタン舗装新設D 断面図　S=1:10

（オメガ側溝部）

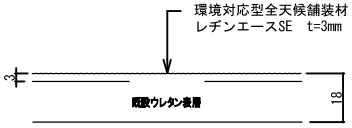


ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ舗装新設断面図　S=1:10



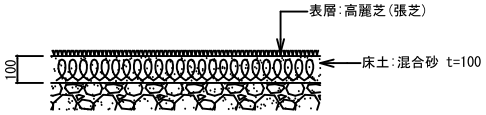
ウレタンオーバーレイ 断面図　S=1:1

（Bゾーン旧砲丸落下域部）

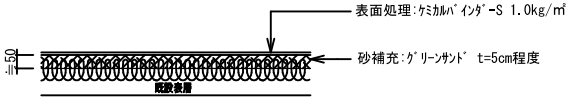


張芝 断面図　S=1:1

（Bゾーン旧砲丸落下域部）



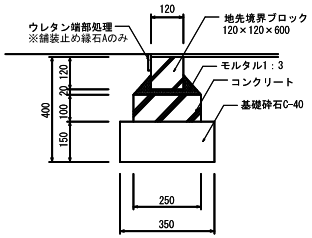
砲丸落下域砂補充断面図　S=1:10



工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	路面断面図		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	図示	図面番号	11
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

舗装止縁石詳細図

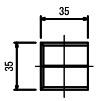
S=1:10



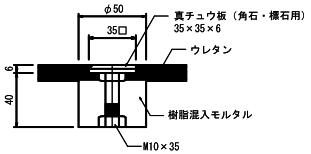
角石・標石詳細図

S=1:2

平面図



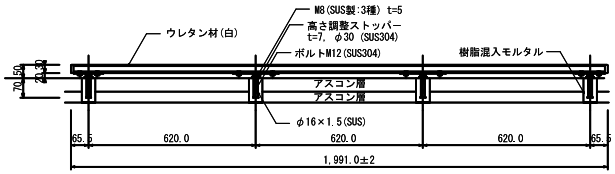
断面図



内圏縁石詳細図

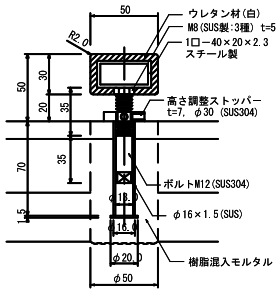
断 面 図

S=1:10



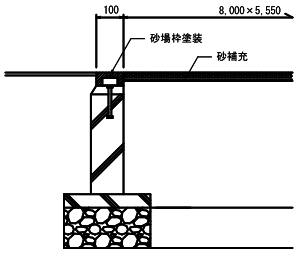
内圏縁石断面詳細図

S=1:2

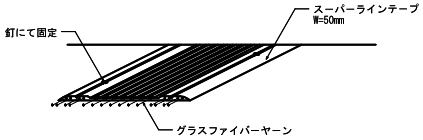


砂場砂補充断面図

S=1:10

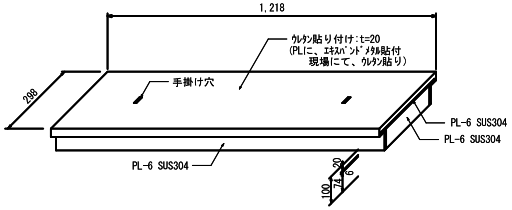


ラインテープ詳細図



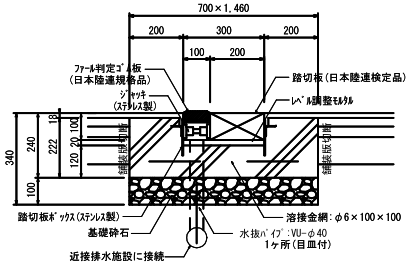
突箱詳細図

蓋部詳細図



断面詳細図

S=1:10

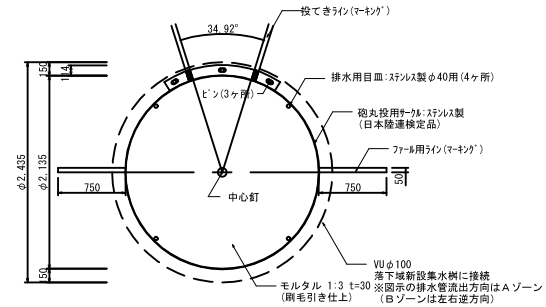


工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	詳細図-1		
作成年月日	令和7年9月		
縮 尺	図 示	図面番号	12
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

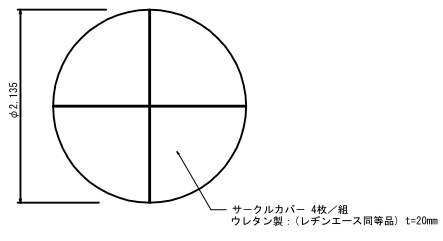
砲丸投サークル詳細図

S=1:30

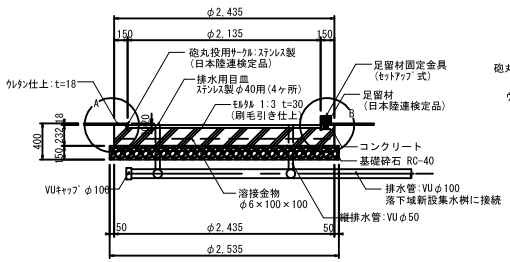
平　面　図



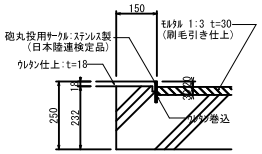
サークルカバー平面図



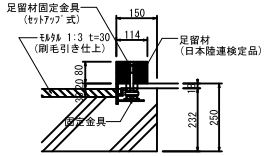
断　面　図



A部詳細図



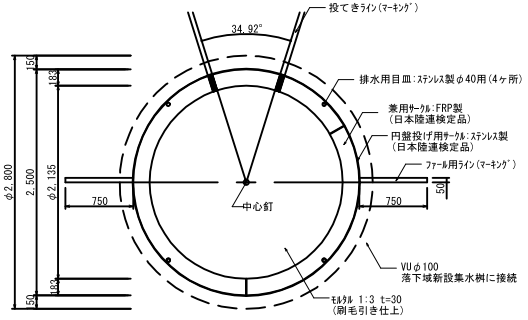
B部詳細図



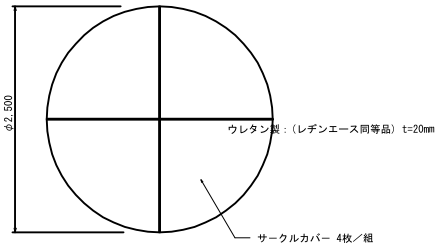
兼用サークル詳細図

S=1:30

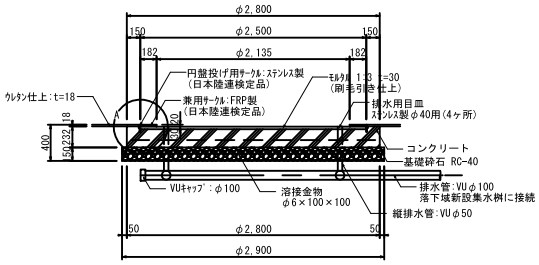
平　面　図



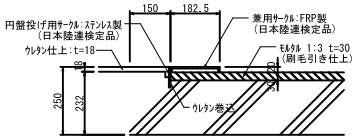
サークルカバー平面図



断　面　図



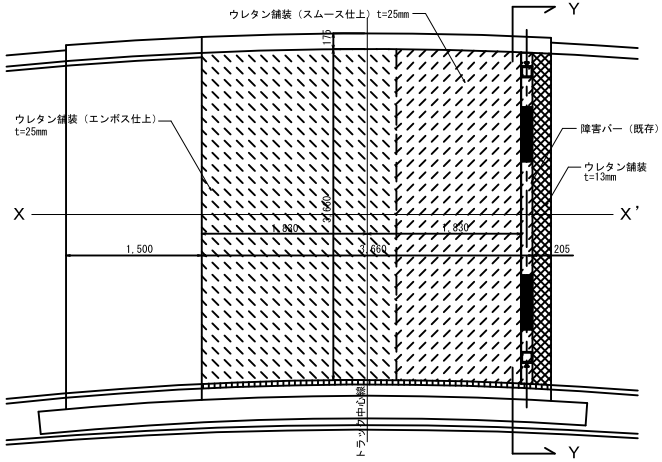
A部詳細図



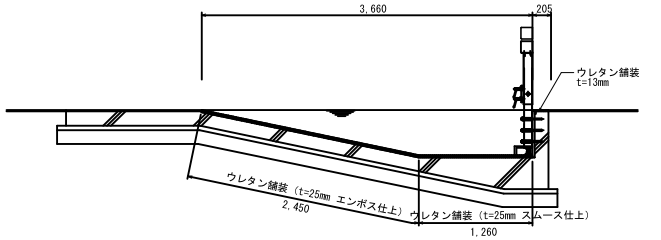
水濠改修詳細図

S=1:30

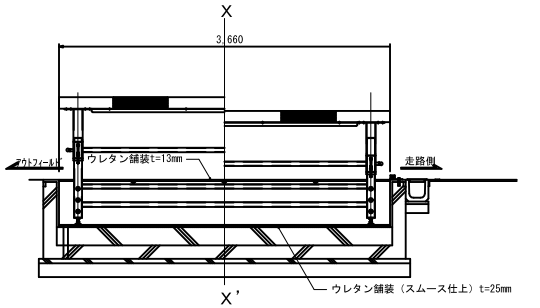
平　面　図



X－X'断面図



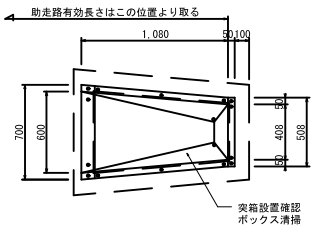
Y－Y'断面図



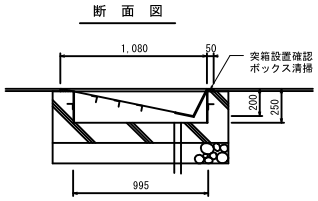
突箱詳細図

S=1:30

平　面　図



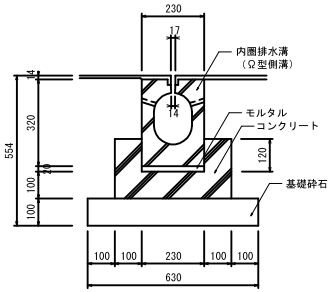
断　面　図



工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	詳細図-2		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	図示	図面番号	13
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

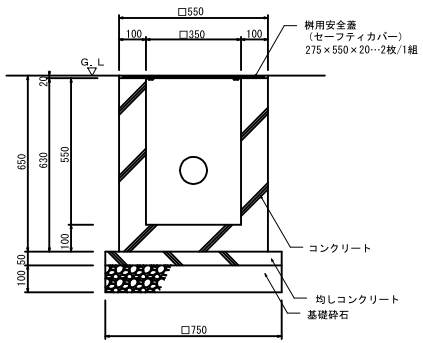
内圏排水溝詳細図

S=1:10



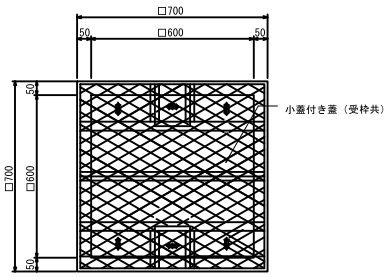
集水桝詳細図

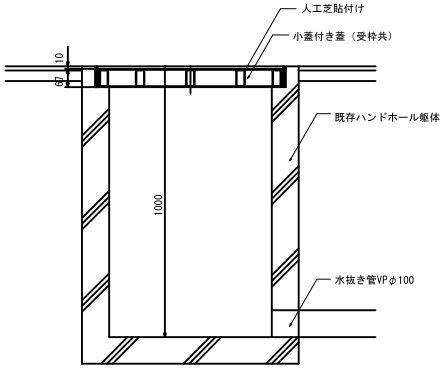
S=1:10



ハンドホール蓋改修詳細図

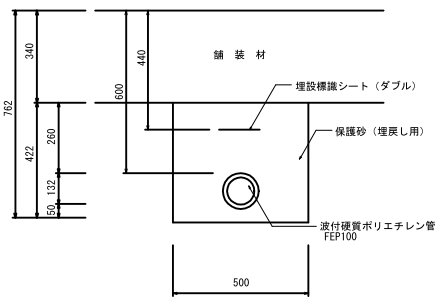
S=1:10





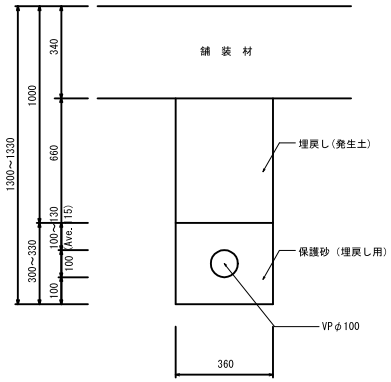
電線保護管詳細図

S=1:10



ハンドホール水抜き管詳細図

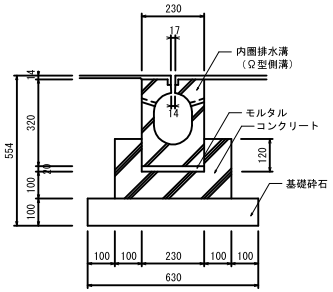
S=1:10



工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	詳細図-3		
作成年月日	令和7年9月		
縮 尺	図 示	図面番号	14
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		

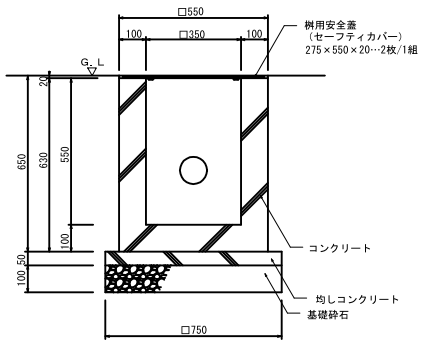
内圏排水溝詳細図

S=1:10



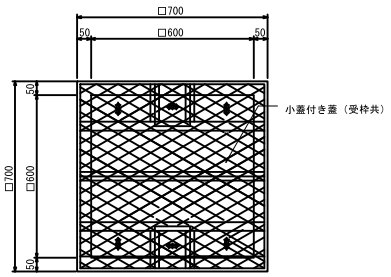
集水桝詳細図

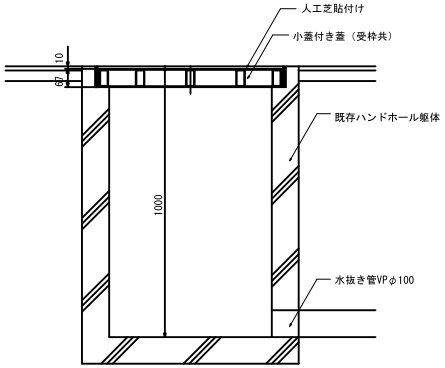
S=1:10



ハンドホール蓋改修詳細図

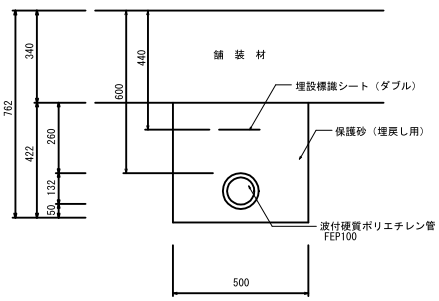
S=1:10





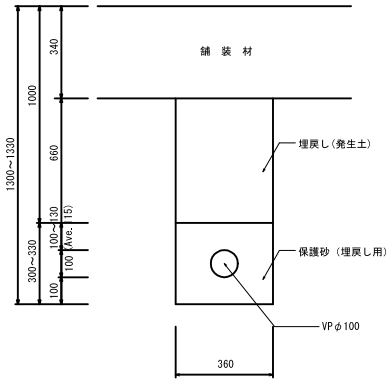
電線保護管詳細図

S=1:10

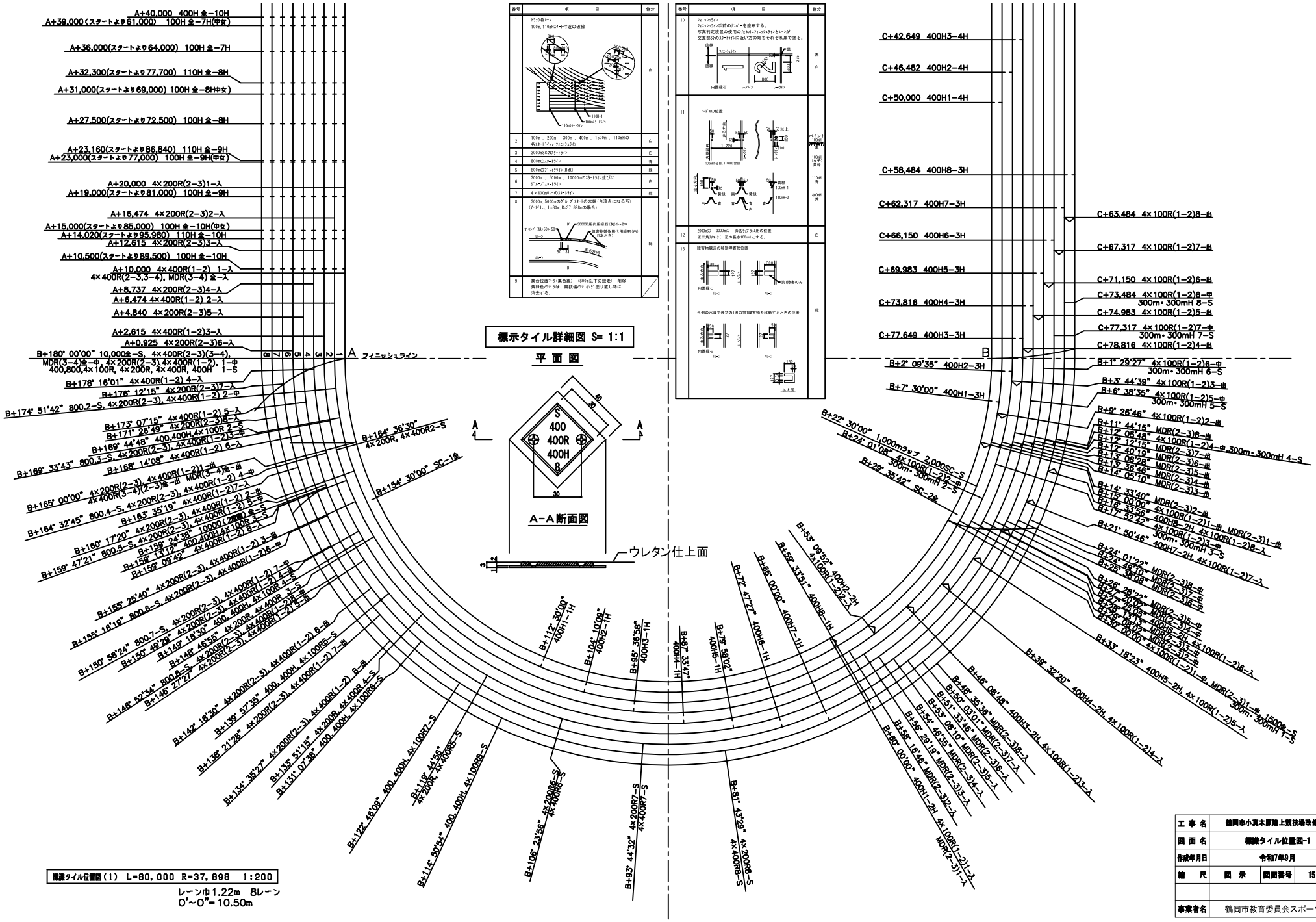


ハンドホール水抜き管詳細図

S=1:10



工 事 名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図 面 名	詳細図-3		
作成年月日	令和7年9月		
縮 尺	図 示	図面番号	14
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		



工事名	鶴岡市小真木原陸上競技場改修工事		
図面名	標識タイル位置図-1		
作成年月日	令和7年9月		
縮尺	図示	図面番号	15
事業者名	鶴岡市教育委員会スポーツ課		